

演劇と映像の新感覚エンターテインメント 《ゲキ×シネ》 最新作！  
エンゲキ シネマ

GekiXCine

新感線☆RX

盗んでやるよ！ てめえらのたまりにたまったさもしい欲を！！

# 五右衛門ロック

作：中島かずき 演出：いのうえひでのり 作詞：森雪之丞

古田新太 松雪泰子 森山未來／江口洋介／川平慈英 濱田マリ／橋本じゅん 高田聖子 栗根まこと／北大路欣也

映像製作：イーオンバイ 配給：ヴィレッチ／ティ・ジョイ 著作：劇団☆新感線／ヴィレッチ

劇団☆新感線の超話題作、いよいよゲキ×シネで登場！

2009.5/16(土)より、関東・関西で上映をスタート！

2009夏から過去最大規模で全国拡大ロードショー！

## ■話題沸騰！新感線☆RX『五右衛門ロック』

2008年夏、圧倒的人気を誇る劇団☆新感線が、東京・大阪を熱狂の渦に巻き込んだ舞台、新感線☆RX『五右衛門ロック』。

稀代の大泥棒・石川五右衛門を演じる古田新太を筆頭に、松雪泰子、森山未來、江口洋介、そして北大路欣也といった各界で活躍する超ゴージャスな出演陣が勢揃い。

新感線の公演の中でも特に音楽にこだわった、生バンドが舞台の上で演奏する“R”シリーズ。その最新作に相応しく圧倒的な迫力のロックに乗せ、歌あり踊りあり、笑いも涙もてんこ盛り、全てが迫力満点の舞台を繰り広げ話題となりました。



## ■5/16(土)より、まずは関東・関西で上映！ 夏には全国ロードショー！

この話題の舞台が、2009年、演劇の映像を映画館で見る《ゲキ×シネ》の最新作として登場！

映像化にあたっては、舞台の迫力と感動に負けられないと、デジタルシネマカメラ15台で撮影、音楽もまた映画館向けにミックスするなど、これまで以上にこだわった映像と音を追求。その結果、“R”シリーズの名に恥じない圧倒的臨場感溢れる新たな魅力満載の『五右衛門ロック』が誕生しました。

ゲキ×シネ 新感線☆RX『五右衛門ロック』は、2009年5月16日(土)より、新宿バルト9(東京)・MOVIXさいたま(埼玉)・梅田ブルク7(大阪)・なんばパークスシネマ(大阪)をはじめとする、関東・関西エリアを中心に上映を開始。(※両エリアの上映館は今後も増える予定です)

また2009年夏には、過去最大規模となる全国ロードショーを展開していきます。

各メディア絶賛の舞台を、最新のデジタル映像技術で、《全席かぶりつき状態》でご覧いただけます！  
2009年春から始まる、ゲキ×シネ 新感線☆RX『五右衛門ロック』にどうぞご期待下さい。

## ■作品情報

- タイトル      ゲキ×シネ  
新感線☆RX『五右衛門ロック』（ごえもんろっく）
- 出演者他      [作] 中島かずき    [演出] いのうえひでのり    [作詞] 森雪之丞  
[出演]    古田新太 松雪泰子 森山未来 / 江口洋介 /  
            川平慈英 濱田マリ / 橋本じゅん 高田聖子 栗根まこと / 他  
            北大路欣也
- 公演記録      08年7/6◎プレビュー公演(東京)    08年7/8～28◎新宿コマ劇場(東京)  
                    08年8/8～24◎大阪厚生年金会館大ホール(大阪)
- ゲキ×シネ    [映像製作] イーオシバイ [配給] ヴィレッチ ティ・ジョイ [著作] 劇団☆新感線 ヴィレッチ  
                    2009/日本/カラー/189分/HD/5.1chサラウンド ※途中休憩あり

## ■ゲキ×シネ上映情報

- 公開日        **2009年5月16日(土) 関東・関西エリアで上映スタート！**
- 上映館        新宿バルト9(東京) MOVIXさいたま(埼玉)  
                    梅田ブルク7(大阪) なんばパークスシネマ(大阪) 他  
                    ※上映館は追加になる可能性があります。詳細は決定次第御連絡します。  
                    ※夏からは全国ロードショーとして過去最高規模での上映を予定しております。
- チケット      **3月14日(土) 前売券・発売開始 2,000円(税込)**  
                    ※3月11日(水)『蜚蜉峠』公演物販にて先行発売  
                    **当日券 2,500円(税込) 当日学生・小人券 1,800円(税込)**  
                    ※前売券はご鑑賞前に指定券とお引換下さい。  
                    ※学生・小人券は当日窓口のみ販売となります。
- 前売販売      チケットぴあ ◎ 0570-02-9999    <http://pia.jp/t>    店頭 ※Pコード(未定)  
                    イープラス ◎ <http://eplus.jp/>  
                    ローソンチケット ◎0570-000-777 『Loppi』 ※Lコード(未定)  
                    上映館窓口
- お客様窓口    ゲキ×シネ上映担当 03-5361-3280 (平日12:00～17:00)
- 公式サイト    **[www.goemon-rock.com](http://www.goemon-rock.com)**    ※携帯 [www.goemon-rock.com/m/](http://www.goemon-rock.com/m/)
- 公式ブログ    **<http://gxcblog.exblog.jp>**    ※ゲキ×シネ公式ブログとなります。

## ■本件に関するプレスお問合せ先

予告編映像・宣伝用画像等ご用意しております。ゲキ×シネ作品DVDプレゼント、チケットプレゼントなど実施予定ございます。詳しくはお気軽に下記窓口までお問い合わせ下さい。

株式会社ヴィレッチ ゲキ×シネ担当：糸永(いとなが) / 山谷(やまや)  
TEL. 03-5361-3031 FAX. 03-5361-3032 E-mail. [gxcinfo@geki-cine.jp](mailto:gxcinfo@geki-cine.jp)  
〒160-0022 東京都新宿区新宿3-3-8 新宿OTビル7F

- 本リリースのPDF版ダウンロードはこちら

[http://www.geki-cine.jp/release/090212\\_goemon1.pdf](http://www.geki-cine.jp/release/090212_goemon1.pdf)

GekiX Cine  
**新感線☆RX**  
 盗んでやるよ！ てめえらのたまりにたまったさもしい欲を!!  
**五右衛門ロック**

意地も見栄もツッパリ倒し

ちいせえ日本を飛び出して、

向かうは南海、謎の島。

狙うは秘宝《月生石》。

## 石川五右衛門、只今推参！

### ■物語

時は豊臣秀吉の世。稀代の大泥棒・石川五右衛門(古田新太)は役人・岩倉左門字(江口洋介)らの手でお縄となり、釜茹の刑に処される。

その葬儀を仕切る謎の美女、真砂のお竜(松雪泰子)。実は、お竜たちの仕掛けにより、五右衛門は生き延びていた。そこに現れる南蛮人ペドロ・モッカ(川平慈英)たち。彼らに乗せられた五右衛門一味は、南の果てのタタラ島に眠る神秘の石《月生石》を求めて船出する。

しかし彼らを追う左門字もろとも猛烈な暴風雨が襲い、海に投げ出される。南の島に流れ着いた彼らは、タタラ島国王クガイ(北大路欣也)の手下によって捕えられる。

絶体絶命のピンチの場に、クガイを憎むバラバ国のカルマ王子(森山未来)、ポノー将軍と妻・シュザク夫人(濱田マリ)が攻め込んできて……。

《月生石》の持つ力とは？ クガイとは一体何者なのか？ 果たして、五右衛門の運命やいかに！

釜茹上等！ 盗んでGO！ 浜の真砂の尽きるまで！

### ■劇団☆新感線とは？

1980年つかこうへい氏に傾倒した大阪芸術大学のメンバーで旗揚げ。“笑い”を意識したオリジナルのSF活劇をひっさげ東京へ進出。

その後、劇団☆新感線の座付作家・中島かずきが書き下ろす時代活劇を、いのうえひでのりがケレン味たっぷり演出する作品“いのうえ歌舞伎”シリーズや生バンドでROCKを重視した“R”シリーズ等で、大手プロダクションと組みプロデュース公演を行うなど、現在の大劇場でのエンターテインメントの一角を築く。

公演ごとに観客を増やし、今最もチケットが取れない劇団の一つと言われる。

所属する俳優に、古田新太、高田聖子、橋本じゅんなど、映像でもお馴染みの面々がいる。

◎劇団☆新感線 公式サイト

<http://www.vi-shinkansen.co.jp/>

### ■作品解説

2008年夏、圧倒的人気を誇る劇団☆新感線が、東京・大阪を熱狂の渦に巻き込んだ舞台、新感線☆RX『五右衛門ロック』。

新感線の公演の中でも特に音楽にこだわった、生バンドが舞台の上で演奏する“R”シリーズ。その最新作に相応しく圧倒的な迫力のロックに乗せ、歌あり踊りあり、笑いも涙もてんこ盛り、全てが迫力満点の舞台を繰り広げ話題となりました。

そして何と言ってもキャストが超ゴージャス！

稀代の大泥棒・石川五右衛門には新感線の看板役者・古田新太。

敵か味方かホントか嘘か、五右衛門を誘う妖艶な女盗賊に松雪泰子、華麗な歌とダンスを披露する孤高の王子は森山未来、五右衛門を追いかけ海を越え、忠義と情の侍に江口洋介。

裏で糸引く死の商人・川平慈英が歌って踊れば、夫と共に秘宝を狙う悪徳女房・濱田マリは大熱唱。橋本じゅん、高田聖子、栗根まことら劇団員も勢揃い！

そして全ての謎を背負うはこの男。恐怖と力で君臨し、男も女も魅了する。島を統べる大王を演じるは北大路欣也！

この話題の舞台が、演劇の映像を映画館で見る《ゲキ×シネ》の最新作として2009年5月より、全国の映画館に順次登場！

映像化にあたっては、舞台の迫力と感動に負けられないと、超高精細デジタルシネマカメラ15台を駆使、音楽も再リミックスし最高の状態にするなど、これまで以上にこだわった映像と音を追求。

その結果、“R”シリーズの名に恥じない、圧倒的臨場感溢れる新たな魅力満載の『五右衛門ロック』が誕生しました。

各メディア絶賛の舞台を、最新のデジタル映像技術で、《全席かぶりつき状態》でご覧いただけます！

2009年春から始まる、ゲキ×シネ 新感線☆RX『五右衛門ロック』にどうぞご期待下さい。

## ■What's GEKI×CINE?

ダイナミックな映像表現と迫力の音響で、演劇の映像を映画館で楽しむ新感覚エンターテインメント〈ゲキ×シネ〉。

演劇は観客も舞台上の人間もその時間・空間の空気を一緒に味わうとても贅沢なエンターテインメントです。しかし、それ故に色々と制約があるのも事実。例えば、

- ◎人気の舞台はなかなかチケットが取れない。
- ◎時間・場所の制約で気軽に観られない。
- ◎公演期間が終了すると永久に見る手段を失うことになってしまう。...などなど。

そこで、私たちは〈ゲキ×シネ〉を通じて、日本の演劇が輩出する素晴らしい作品群、中でも圧倒的な人気を誇る劇団☆新感線の作品を映画館で上映し、もっと自由に・気軽に楽しめる良質な演劇映像を製作・提供していこうと考えました。

作品を初めて観る人には衝撃を。そして生で舞台を観た人には別の新しい楽しみ方ができる映像作りを。作品の面白さはもちろん、キャストの魅力、衣裳・メイク・舞台美術・照明・音響・小道具など、舞台上を彩るすべての要素、そして演劇に一番大切な空気感・ライブ感をそのまま凝縮して映像化し届けることを目指しています。

演劇が持つ生のライブ感と映像ならではの表現が紡ぎだす新しいエンターテインメント、〈ゲキ×シネ〉にどうぞご期待ください。

◎ゲキ×シネ公式サイト <http://www.geki-cine.jp/>

## ■ゲキ×シネ ヒストリー（下記は全てデジタル上映を行っています）

2003秋	[ゲキ×シネ] プロジェクトスタート
2004春	『髑髏城の七人〜アカドクロ』CineAlta12台で24P撮影 『阿修羅城の瞳2003』（舞台製作：松竹）を広島バルト11にてトライアル上映
2004秋	『髑髏城の七人〜アカドクロ』丸の内東映ほか全国12スクリーンにて上映
2005春	『髑髏城の七人〜アカドクロ』丸の内東映ほか全国15スクリーンにて上映
2005秋	『SHIROH』シネクイントほか10スクリーンにて上映
2007春	『メタルマクベス』新宿バルト9 オープニング特別上映
2007秋	『朧の森に棲む鬼』新宿バルト9ほか全国20スクリーンにて上映
2008春	『ゲキ×シネ ツアー2008』新宿バルト9ほか全国18スクリーンにて上映
2008秋	『髑髏城の七人〜アカドクロ』ゲキ×シネ初の海外上映として韓国上映を実施

## ■ゲキ×シネの技術とデジタルシネマ

### ◎デジタルシネマとは？

映画が世に登場して110年強、フィルムが存在自体が変化しようとしている——。それが、このデジタルシネマの登場です。

これまで映画製作において、フィルムはなくてはならない存在でした。しかし、デジタルデータによって、撮影、編集、配給、上映を行う規格を示したいいわゆるDCI (Digital Cinema Initiatives) 規格が、06年にハリウッドメジャーを中心とした映画業界に支持されました。これがきっかけとなり全米では08年中にデジタルシネマを実装したスクリーンが、5,000を超えたとされています。

### ◎国内の動向

ゲキ×シネがスタートした04年当時には、わずかに10スクリーンに足らずだったデジタルシネマが、09年中にも300スクリーンに届く勢いで普及しつつあります。

また、09年は3-D元年とも言われており、大量の3D作品がハリウッドから日本に上陸します。これらの上映に際しては、デジタルシネマのインフラが必須となることは言うまでもありません。また、ジェームス・キャメロン監督の注目の作品、3-D実写のSFアクション「アバター」が、09年度中に上映が決まっており、今後の国内の動向が注目されます。

### ◎ゲキ×シネとデジタルシネマ

“ゲキ×シネ”は、デジタルシネマの技術の恩恵を受けています。

そもそも3時間を越える舞台の撮影をフィルムで行うことは不可能です。SONY F950を中心としたCineAltaにてマルチカム撮影（五右衛門ロックの場合15台）をおこない、HDCAM-SRにて24P収録。ポストプロダクションはDI (Digital intermediate) 工程を経て、最終的にDCP (Digital Cinema Package) となり、ゲキ×シネをロールアウトすることになります。

これらの流れは、今までスクリーンでの上映が不可能だったコンテンツ、たとえば演劇やコンサートをスクリーンに送りだすことが可能となりました。

ゲキ×シネの登場時は、日本国内は黎明期とも言え、国内で先行してデジタルシネマのインフラを導入して実績を重ねてきたティ・ジョイの協力が得られたことは、現在の基礎技術を育成していく上で重要なことでした。また、撮影、ポストプロダクション、DCP制作において、IMAGICAの全面協力があつたことは、制作工程における進化の度合いを進めたことは明らかです。

新しいことへのチャレンジ。すべてのスタッフがトライした結果が今のゲキ×シネのかたちです。

まさにゲキ×シネの歴史は、デジタルシネマの登場と生育に歩調を合わせたかのように、日進月歩で紡ぎ上げられています。